



# すぎなみ 大人“熟”してる？

Jukuseru? TIMES' 18

高円寺コース  
もっと高円“人”

第5号

平成30年11月21日発行  
発行元：社会教育センター【事務局】

第3回（平成30年10月31日）参加者23名+見学2名  
高円寺のコミュニティスペースの実践②まちのフリースペース「ヒトツナ」@高円寺  
ゲスト：浅井義彦さん、國松佳子さん、吉田善博さん

19:00~19:05

本日の流れについて（川上さんより）

19:05~20:40

ゲスト講師との鼎談会

ヒトツナが生まれるまで（浅井さん、吉田さん）

ヒトツナで行われたイベントの紹介（國松さん）

20:40~21:00

徒歩でヒトツナへ移動し見学、見学後解散



高円寺コースの受講生の皆様は行動力にあふれた方が多い印象ですが、この高円寺コースをブログにUPされている方がいます。田中(利)さんです！（拍手）大人塾のさらなる広がりを感じますね。実は私も掲載していますという方、いらっしゃればどんどんこちらで紹介しますので、お声掛けください。



第3回は、「ヒトツナ」の実践を3人のゲストの皆様からお話いただきました。運営をされている國松さん、設立に関わった吉田さん、浅井さん。それぞれのお話を聞いておられますと、やはり高円寺には街に対する熱い思いがあると思わざるを得ません。

思いを実現する人、それを支える人、今回お話を伺った3人の皆様以外にも多くの方が関わって、今のヒトツナがあることに感動した皆さんも多いのではないのでしょうか。



ヒトツナを会場として使ったなら、あなたはどのような“たまり場”が実現できるでしょう？



田中さんの文章を（一部）ご紹介します！！



ママ友3人から始まった高円寺の拠点づくり～  
すぎなみ大人塾高円寺コース～その3

「自分の空き店舗を高円寺のまちづくりに役立てたい」（浅井）

高円寺の南に延びるルック商店街の店舗が空き店舗となり、「地域のため、街づくりのために有効活用できないか？」と思っていたそうです。

「任せて文句を言うまちづくりから、皆で一緒に考えるまちづくりを高円寺に！」（吉田）

吉田さんは、2012年に「高円寺地域ネットワーク化によるまちづくり協議体」を立ち上げ、「コミュニティ・プロジェクト」を発動させます。

「まずは思いをコトバにすること」そして、「それぞれの個性を生かし、Mixして笑顔を創造してほしい！」はじめはママと子の居場所というだけだった「ヒトツナ」という場所が、今では様々な講座やイベントが開催されています。（詳細は、特定非営利法人CBすぎなみプラスのHPで、ご覧ください。）

### 受講生意見・感想（抜粋）

▶浅井さんは大学の講義のようで、吉田さんは立て板に水のよう  
に流暢なお話で、国松さんはママが子供に語りかけてい  
るようで…三者三様。でも、ヒトツナを核にして、いい空気  
感を醸し出していると思いました。ヒトツナを実際に見学し  
て、ここで私なら何が出来るんだろう?ってワクワクしました。  
▶国松さんのお話に心がほんわかとあたたかくなりました。  
ヒトツナは以前から知っていましたが、今日吉田さんのお話を  
伺うまでは、そのような壮大な背景があったことを知りませ  
んでした。今日そのことが聞けて、ヒトツナへの思いがもう少し  
身近なものになりました。ありがとうございました。  
▶行政とは別に自由に活動できるところが良い部分。共感でき  
る方と楽しいコミュニティを形成しているという感じがしま  
した。▶一般社団法人の設立や助成金の活用など様々な工夫を  
しながら運営していることが分かり、とても勉強になりました。

### 第4回（平成30年11月7日）参加者22名 現代版私設公民館＝Co-minkanの挑戦 ゲスト講師：横山太郎さん （Co-Minkan 実行委員会共同代表）

19:00～19:05

本日の流れについて（川上さん）

19:05～20:10

Co-Minkanについて（横山さん）

20:15～20:55

グループワーク（川上さん）

20:55～21:00

次回について、すぎなみ大人塾連主催講座の紹介

第4回は、横浜市で現代版私設公民館＝Co-minkanの活動に取り組まれている横山さんにお話を伺いました。緩和ケアを専門とされている医師と社会教育という組み合わせとは？



はじめの一步は、  
今日行くところを作る

Co-minkanの活動には、終末期のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を高めるために、患

者の意思決定を支援するプロ専門家の市民が必要なのではないかという思いや、社会的孤立を減らし社会参加したい人にきっかけを与えたいという思い等様々な思いがあることをお話しいただきました。

また、これまでに行われたイベントもご紹介いただきました。医療と衣・食・住を掛け合わせて考えるというお話は、“たまり場”を考える際にも参考になりそうですね。



後半のグループワークでは、“たまり場”作りの前哨戦ということで、アイデア出しを行いました。いきなりのワークでしたので、すぐに書き出す方、悩む方様々でしたが、全体の発表まで行いました。



第6回

（12月5日）には、実

践のグループに分かれます。自分の得意なことを生かして、自分はどういった関わり方ができ

るのか、大人の力の見せどころですね。



### 受講生意見・感想（抜粋）

▶医療現場から地域のたまり場にどうつながるのかと思っ  
たが、孤立（孤独）の課題は、医学の現場も社会の現場も共  
通するとことがあるのを初めて聴いた。自分のたまり場の  
アイデア出しは、もう少し時間があると良かった。▶最後に  
横山先生が話された、魚がほしい人に魚をあげるとすぐ満  
たされると次がないから釣竿をあげればまた魚を釣れる  
し、木にある実を取ったりできるという発想の豊かさに驚  
きでした。先生の流ちょうなお話（死に対するお話も孤独死  
ではなく、孤立死に）引き込まれました。